

奇觀 席上

垣根學

四

~ 13
3105
4



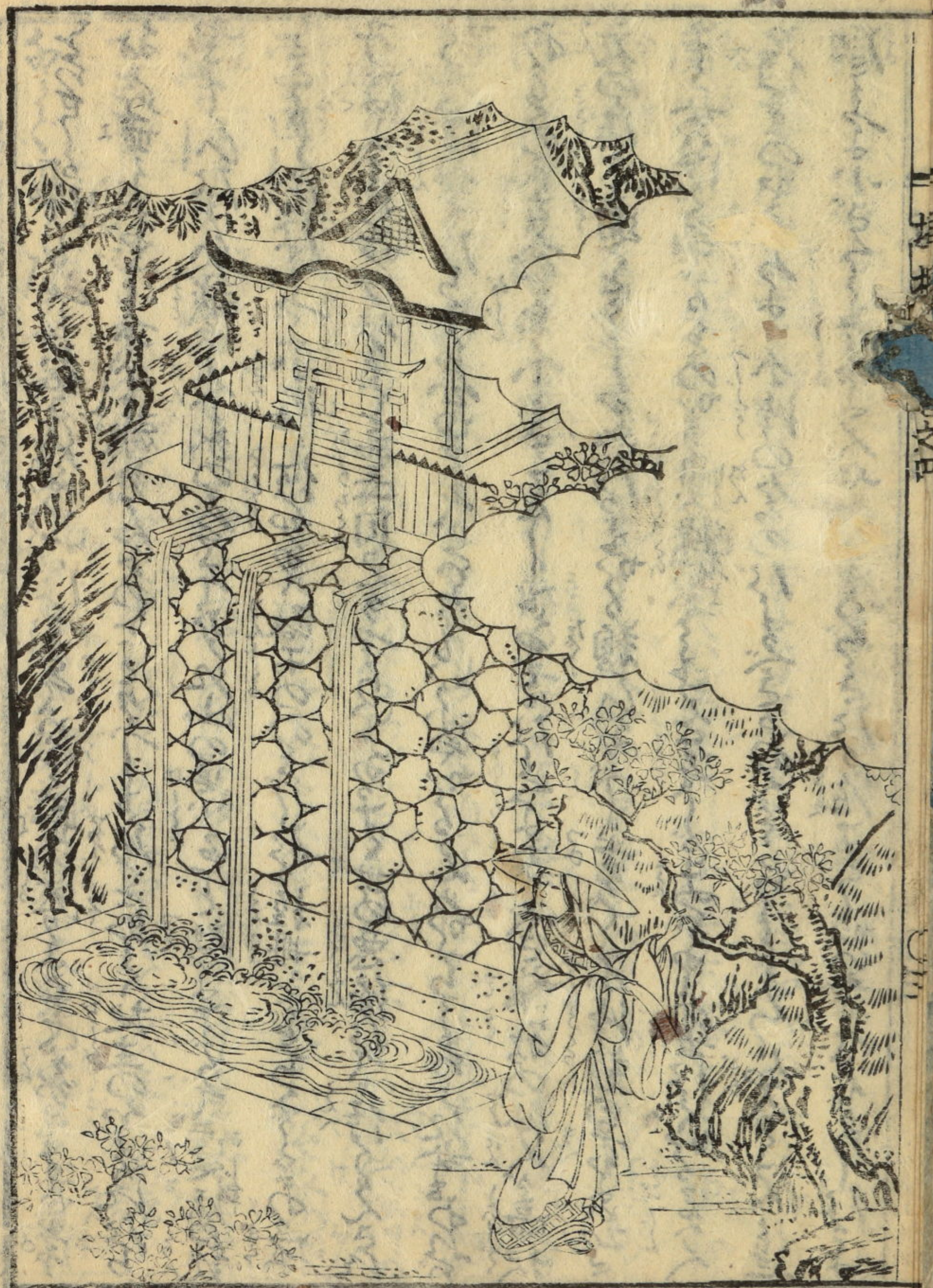
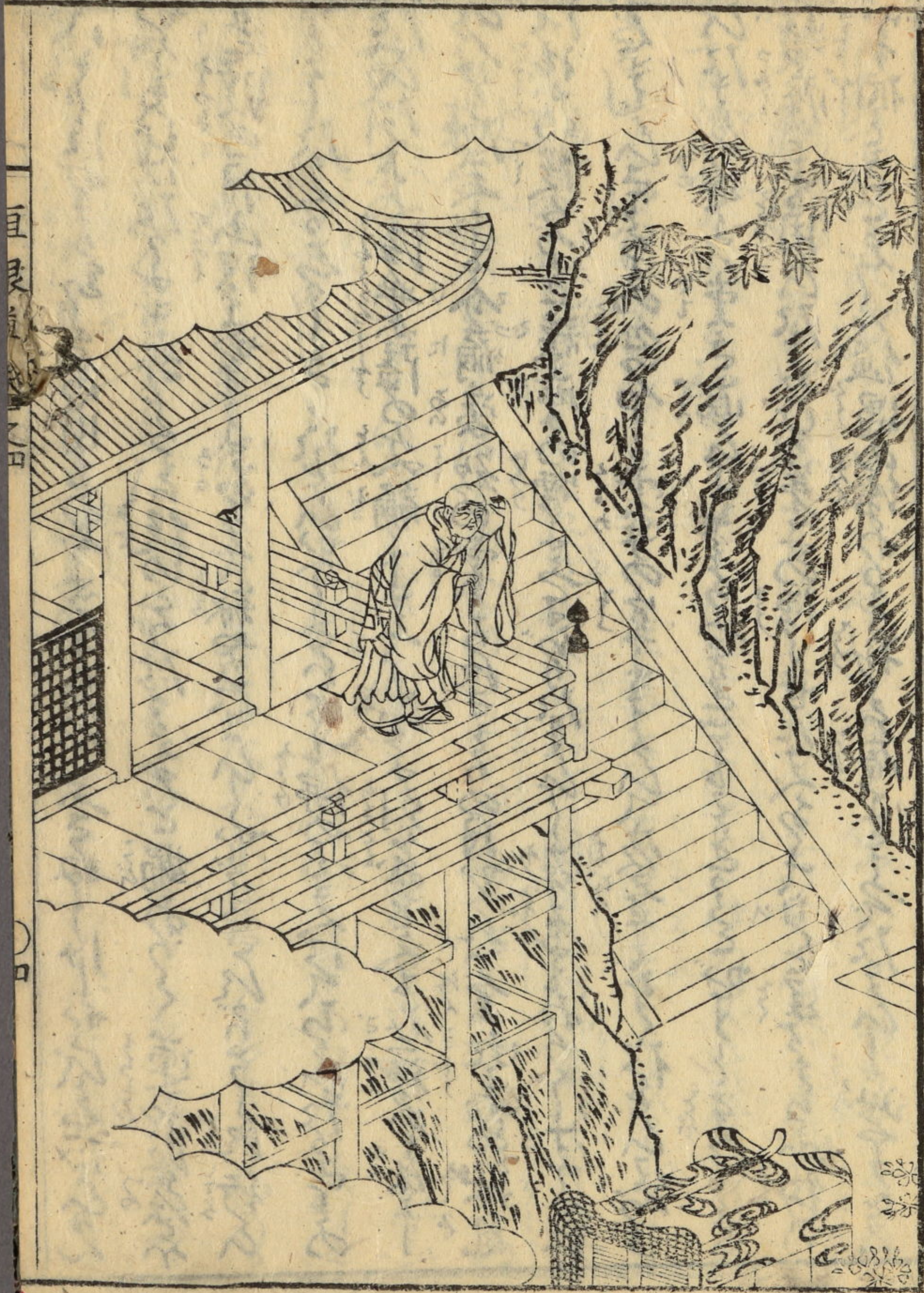
13
3105
4

昭和九
七月三日
購本

清上奇勸花草四之卷

小櫻奇縁によりて貴子と申し侍

大和の國高市の郡に小野兵衛といふあり代農家は家畜多く一勢
幸ひかゝりて其子に名を通明と申すあり切通寺堂殿に仕て勤事り
父の兵衛身よりて後の故郷に居りて橘の行末娘と申すあり父の業をば
この礼節に身知をとりせんより村野の結計天壽と申すあり孝心あり
こいさしむらねに多甲と申すあり子と申すあり明善と申すあり老
乃孫と申すあり乃孫のわら子と申すあり孫の孫と申すありはけ誠之指と
申すあり大進のやと申すありのや申すありと申すありと申すありと
初瀬寺の觀世音二十方系統したりに差ともありんか申すあり
らに妙ありんか申すあり清水の草尊と申すあり有縁と申すあり

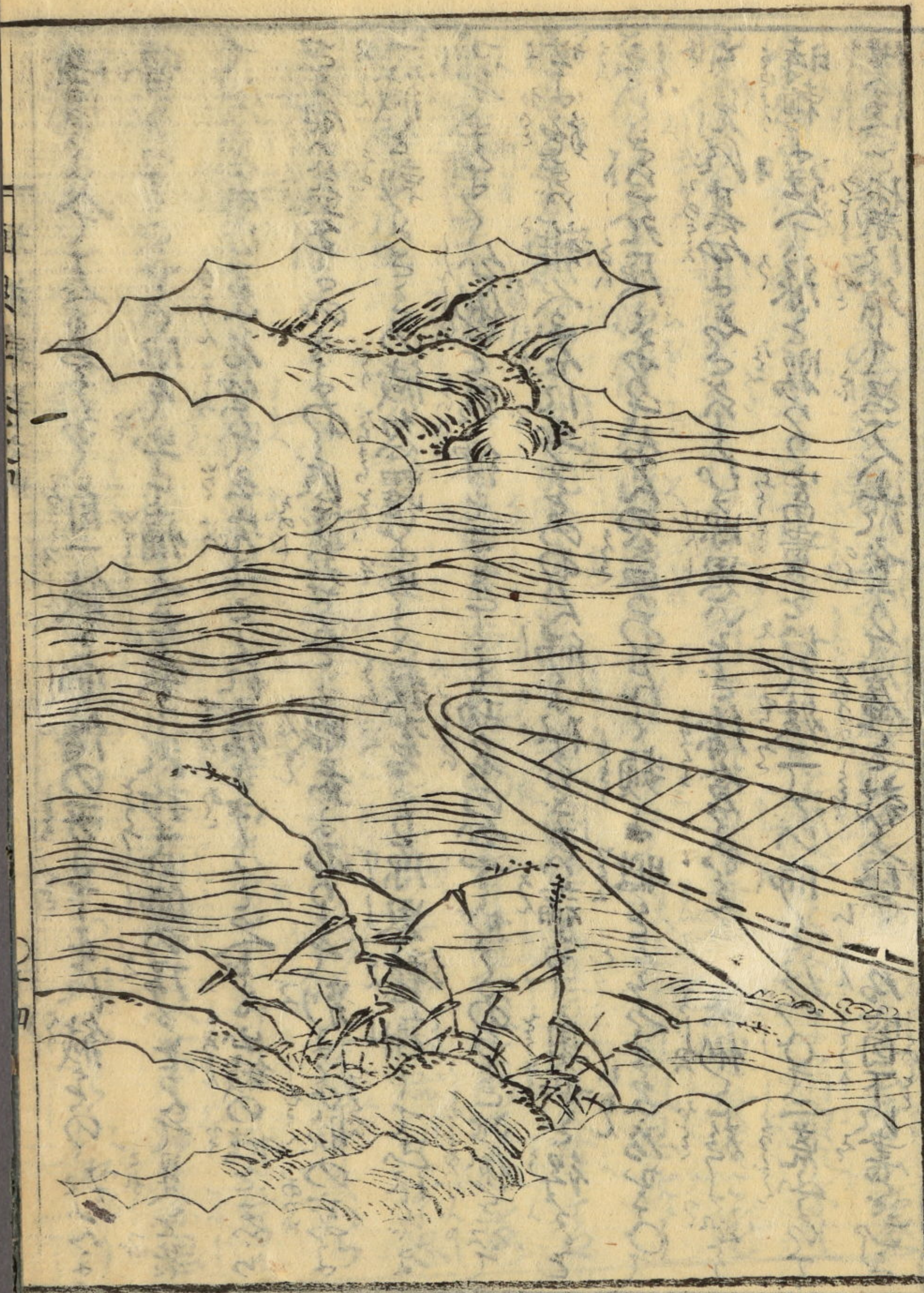


に斐たる布より法司の御もくもくを伺ひ返さるる人ともうさけ
 てらけ居り今夜三更の頃例の暮着薙と愛を文川と居らんことを
 求り申流して岡野とまよき向ふ方へはなれとていでりてりてりて
 物見へまよき今日も山打多のおほほほとて侍りてりてりてりてり
 痛くともまよき侍りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 定まりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 余あまきとも老女生國の良徳國と山里の者え妻も侍りてり
 此侍人なるりて老女が罪をにりてりてりてりてりてりてりてり
 宿まきまよき侍りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 女此まよき侍りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 まよき侍りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり

ろりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 此まよき侍りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 まよき侍りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 には司人なるりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 及びまよき侍りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 方と報とてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 わりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 細とまよき侍りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 かな人なるりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 同てりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり
 は月い侍りてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてりてり

身をたてて鐵と出で其足裸上二寸と刺と轆のくへ婦人履き
 するごとくに入られ力常よこせぬ下は疾起る日より一人の世業
 たる男ありて城外より山林の間に懸け行今目も伊れはつる
 秘より彼男路のやらの棘刺に足とこもえ動ことわらばあま
 りとまきつるやうなうしう時頼るは履責して其形とさるる
 刺とつる人の死より奇怪に似たりとも白粉の京より死す鬼
 官鬼信鬼皇のていそ足つる世の醫もらん術と鐵と其の
 とみ芥のごく百粒刺ぐ庸醫のわきりたる家術入はるる
 とつる人術の妙なること信業とさる者甘きまけたも金澤原思
 むるの日夜と潜るえ其術の奥妙と極むことと求むるの術と
 けははるるもしてまあくとたむとさるる鐵後の術とことと意んん

新運するん呼吸の法多きまを陰陽の盈虚よりえ指天工
 代の妙あり法志すしととも用ひまわくはむ術と試と業と書
 念るるも鐵後の世と處情ふとて新くあはるる山と水と
 静に世金と治り其後妙妙と傳へ下り人を治り鐵と金鐵と用ひ
 ありの妙は後世の字もあてまよふるの諸あり後世佳石ありて
 と同じく後石鐵ありとともたてて異人は連り術と多し時下野回二荒
 かに佳石のそとともありてまよふるは原思はて後とく
 二荒中入り昼夜のれとともえ松風困雲は伊れ保慮と安全の鐵
 せども新に一日原思界をとりて人は悩むる原思はてとて出
 せども新に一日原思界をとりて人は悩むる原思はてとて出



恒
桐
卷
四

下つて行方とあるは原思益師のねまぐさとありて此令り世に於
 家徳の白の量火あふくもそよ新て後の福と拂つてはるるを
 乃も是為一大石と指して云汝試み此をとりて徳とあるを今とわ
 原思われりてはるるを判りて徳とありてはるるを今とわ
 時の鐵石も刺下病人にのぞき徳と試むるは汝石と云ふことと
 用公粗かり鐵石を先と得るは汝と判りてはるるを今とわ
 せりてはるるを今とわはるるを今とわはるるを今とわ
 濟すことと暫くして一緘を下して誠を汝と云ふ水に投ずるごとく
 石名忽ちわに方きたるはるるを今とわはるるを今とわ
 鐵石のところより多る面を破り汝家に居りてはるるを今とわ
 石室の中にをよとせんは汝果たりての目わんは後患をかゝるごとく

やと下まてお中の計策をいわゆるはるるを今とわはるるを今とわ
 原思との得道の人を今とわはるるを今とわはるるを今とわ
 人多く家におりて其妻の起居と云ふは原思山に登りて日候り
 瘡いところを前好と云ふは只今のよ山中にありて醫を求む君幸
 ひな座よりえ緘を下したまふと云ふて其後を云ふは二日を
 行く疾愈ありと云ふはいふく師の得道の異人なるを信じて愧服
 してはるるを今とわはるるを今とわはるるを今とわはるるを今とわ
 遂にその終りも云ふと云ふは徳の精妙から神異も傳うあらど
 を代り無徳の庸醫人をわするはるるを今とわはるるを今とわ
 阿鼻に送りてはるるを今とわはるるを今とわはるるを今とわ
 推て知るなり

